

インターンシップ報告書

(KB2022BA)



派遣国	ベトナム社会主義共和国	派遣都市	バンメート
受入機関	Niconicoyasai, Ltd.		
受入機関概要 (事業内容等)	無農薬・無化学肥料栽培の野菜の生産および出荷		
派遣期間	2015年12月1日 ~ 2016年1月30日		
所属先	(特非) アムダ		
所属部署	AMDAフードプログラム	性別	女性

インターンシップ内容 (概略)	①無農薬・無化学肥料栽培の野菜の生産・調整・出荷作業 ②共同農場の視察(バンメート、クロムボン、ダラット) ③販売会社および取引先企業の視察(ホーチミン) ④直売会参加(ハノイ) ⑤日本での有機農業技術の実演や紹介
--------------------	---

1. 自身の目標と達成状況

目標	①受入機関の歴史や経営方法、顧客獲得や販路開拓方法について学ぶ ②ベトナムの有機農産物認証制度について学び、レポートを作成する ③ベトナム各地の農場を訪問し、地域や気候による農業生産の違いを知りレポートを作成する ④農産物生産量および品質向上のため葉物野菜の比較栽培を行う
達成状況	①知りたかった情報を得ることができた。帰国後所属先にて報告を行う予定である。 ②ベトナムには公的な有機農産物認証制度はなかったが、それに変わる仕組みについて学んだ。 ③3つの地域の農場を訪問し、先進的技術を導入している農場や新規開拓中の農場を視察した。 ④明確な差は得られなかったが、生産量および品質向上のための液肥作りを伝えることができた。

2. インターンシップで直面した課題・困難、その原因とどのように対処したか

課題	①ベトナム人スタッフからの熱心な依頼を受け、私自身知識や経験の乏しい発酵食品づくりの分野で課題に挑戦しようとしたが、インターネット等での情報収集では限界を感じ、また残りの期間では期待に応える成果を出すことも難しいことを理解してもらわなければならない状況が生まれた。 ②業務でも日常会話でも、ベトナム語は発音が悪いいためかほとんど伝わらなかった。
対処方法	①ミーティングを行い、取り組んでいる現状を報告し私自身の専門外であるため、成果を出すことが難しいことを説明した。また日本人ディレクターからベトナム語でも再度話をしてもらい、きちんと理解、納得してもらい、スタッフを落胆させないように配慮した。 ②必ず伝えたいことは、事前に文章や単語を書いておき、読んでもらうことで意思疎通を図った。

インターンシップ風景 ①



野菜の調整作業



出荷場風景



人参畑中耕除草

3. インターンシップを通じて向上した/しなかった国際的な事業展開を担う際に必要となる能力、スキル、知識およびその理由

能力 スキル 知識	①向上した能力 異文化適応能力、忍耐力 ②向上しなかった能力 語学力(ベトナム語)
理由	①日本では当たり前のことが現地では当たり前でなかったり、説明しても問題と捉えてもらえなかったり、理解してもらえなかったりしたが、忍耐強く、柔軟に対応する力が身についた。 ②受入機関に日本語の堪能なベトナム人スタッフがあり、困ったことがあっても日本語で対応してもらえたためベトナム語が想像より向上しなかった。

4. 今回の経験、成果を今後の自身の業務、所属先の海外展開促進に具体的にどう活かせるか（社会人所属あり）、または今後の就職、キャリア開発に具体的にどう活かせるか（学生・社会人所属なし）

今回のインターンシップでは、ベトナムでの無農薬、無化学肥料栽培の野菜の生産から、流通、販売まで一連の流れを勉強することができた。この業界はベトナムで近年活発になり他社も多く参入してきているようだが、先駆けとなった受入機関の取り組みや創設者の思いを知ることができた。新規事業立ち上げの苦労や事業展開していくなかで、ベトナム人と共に一步一步夢を形にしていく過程を垣間見させてもらった。

また農場を視察に訪れた情熱的な若手農家や学生との出会いから多くの刺激を受けた。国際的な仕事をしていくにあたり語学力が必要であることも十分実感したので、語学力向上に向けて取り組みたい。

今後はインターンシップ活動を通して得た人脈、ネットワークを社内に紹介し、ベトナムでの事業展開の際には足がかりとしたい。

5. 受入機関のコメント

インターンは有機農業技術者として、現地で入手できる資材を利用した微生物資材作りや発酵液肥作り、太陽熱養生処理などを伝えた。ベトナムにおいて有機農業の経験者は少ないので有難い人材だった。

また課題に対してミーティングを経てよりよい解決策を見つけていく仕事スタイルは、ベトナム人スタッフの参考となった。

2か月間というのは農業にとっては短期間である。ベトナムの気候をよく知り、微生物資材などが野菜の生育に与える効果を目にしてもらうためにも長期受入を希望する。

有機農業という分野は、国を超えて共感できる良いところがあるので、今後も継続して関わっていきたい。

インターンシップ風景 ②



イオンで販売中の受入機関の野菜（ホーチミン）



共同農場視察（ダラット）



農場スタッフに発酵液肥の作り方をプレゼン

インターンシップ報告書

(KB2033BA)



派遣国	ベトナム社会主義共和国	派遣都市	バンメート
受入機関	Niconicoyasai., Ltd.		
受入機関概要 (事業内容等)	無農薬・無化学肥料野菜の生産ならびに出荷		
派遣期間	2015年12月1日 ~ 2016年1月30日		
所属先	東京農業大学		
所属部署	国際食料情報学部	性別	女性

インターンシップ内容 (概略)	①無農薬・無化学肥料野菜の生産ならびに出荷作業②広報資料の作成③バンメートの提携農家ならびにクロムボン、ダラットの農場視察④ホーチミンの出荷オフィスにて出荷作業ならびに取引先企業の視察⑤ハノイで行われている直売会への参加
--------------------	--

1. 自身の目標と達成状況

目標	①開発途上国における有機農業ビジネスの経験を積む ②消費者と生産者の距離を縮め、共感者を増やすための情報手段を模索する ③ベトナム農業への理解を深める
達成状況	①生産サイドでは10カ所の農場の視察や流通経路の確認を、販売サイドではハノイでの直売会への参加やホーチミンオフィスでの出荷作業、店頭で野菜が販売されている様子を視察することが出来た。②共感者を増やすためのきっかけ作りの手段として直売会(対面による販売)と商品デザインを良くすることがあると感じた。「有機野菜の普及を通じて、自然環境を守る」といったメッセージに共感できるベトナム人はまだまだ多くないようだった。③バンメートの特産品をコーヒー、カカオ、カシューナッツの3品にしぼり、生産から加工までの過程を実際に見て学ぶことが出来た。地域によって異なった農業が展開されていることを理解した。

2. インターンシップで直面した課題・困難、その原因とどのように対処したか

課題	【困難】①出張の際に空港で予定していた便のチケットが発券してもらえなかった。窓口の人とのコミュニケーションがうまく行かず、理由が把握出来なかった。②ミツバチに利き手の手のひらを刺された。料理を自分で取れなくなったり、しつこく続く痛みでイライラし、パソコンが使えなくなったりして仕事に支障が出た。
対処方法	①原因:そもそもチケットの発券予約手続きを終えていなかった/対処方法:受入機関の日本語が話せるベトナム人スタッフに電話をし、窓口の人と話してもらった。また、紙に文章を書き出し、状況理解に努めた。②対処方法:食事の際は周りの人に助けってもらった。また、「痛い」「蜂に刺された」「氷をください」という言葉を覚えて、農場以外の場所でも自分で氷を手に入れられるよう努めた

インターンシップ風景 ①



従業員の方と一緒にコマツナの収穫をしている様子



ハウスを利用したトマト栽培を展開する提携農家の農場を視察

3. インターンシップを通じて向上した/しなかった国際的な事業展開を担う際に必要となる能力、スキル、知識およびその理由

能力 スキル 知識	①向上した知識・・・マーケティングにおいてデザインの方が大きいということを理解した。 ②向上しなかった能力・・・ベトナム語
理由	①まだまだデザイナーが多くはない国では、パッケージがあまり見栄えが良くないものも販売されている。農場でただの瓶に入れていた油と、デザイナーが手掛けたおしゃれなラベルを貼ったおしゃれな瓶につめた油とでは、雲泥の差があることを目の当たりにした。 ②受入機関のインターン担当兼農場長のベトナム人が日本語が堪能で、あらゆる業務やコミュニケーションは彼を通じて行ったため。

4. 今回の経験、成果を今後の自身の業務、所属先の海外展開促進に具体的にどう活かせるか（社会人所属あり）、または今後の就職、キャリア開発に具体的にどう活かせるか（学生・社会人所属なし）

- ・今回のインターンシップを通して、文字や写真を使って他者に伝えることの大事さを学んだ。デザインの業界は自分とは無関係だと思っていたが、野菜や加工品を売っていくうえで必要な要素だと理解した。この学びを生かし、幅広く業界を見て就職先を決めていくことが出来るだろう。
- ・なにか強みがないと海外に出ても、何もできないということを痛感した。なんらかの技能を身につけることが出来るような会社を視野に入れたいと思うようになった。会社選びの際にこの考え方が生かされると思う。

5. 受入機関のコメント

- ・のびのびと積極的に、現地スタッフの子供達とコミュニケーションをとっていることに好感が持てた。撮影する写真の構図や、資料のまとめ方に非凡なものを感じた。そのためカタログづくりやパンフレットづくりに重点を置いた仕事を指示した。インターンシップ期間中、精神的に参加している様子が数日間見られたが、こればかりは自分で乗り越えるしかないとそっと見守っていたところ、自分なりに気持ちを切り替えたようで安心した。実務的な能力もちろん必要であるが、海外で暮らす上では精神的なタフさや粘り強さは必須だ。よく乗り越えたと思う。今回得た経験を糧として、自信を持って日本での活動に活かして欲しい。
- ・人に説明する際に役に立つ資料を作ってくれた。お客さんと少し近づけたように感じる。農家の情報開示に一生懸命取り組んでくれて助かった。生産よりも販売やマーケティングに向いているのかなと感じた。

インターンシップ風景 ②



広報資料作りに写真は欠かせない



市販の瓶に詰めただけのオイルとおしゃれな瓶とラベルでかっこよく仕上がっているオイル